

## 第13回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会東京大会

中村千穂「高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会ハイリハキッズ」代表

2024年7月6、7日に東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂にて第13回日本脳損傷者ケアリングコミュニティ学会東京大会が開催されました。気温が35℃近い中、ゲリラ豪雨に見舞われるなど大変不安定な天候ではありましたが、186名の方にご参加いただき無事大会を終えることができました。助成や後援をはじめ、大会開催にあたりご協力くださった皆様に心よりお礼申し上げます。

昨年の9月から毎月大会実行委員会を行いました。15名（当事者、家族、支援者など）の実行委員と日産厚生会玉川病院の療法士の皆さんはじめ、多くの方々にご参加いただきました。平日の仕事帰りに集まり、毎回活発な意見交換が行われ、大会テーマ「協働意思決定」にたどり着きました。本学会は障がいのある方が周囲の人々と双方向で支え合い、学び合い、同じテーブルについて討議していく「コミュニティ」の構築を目指しています。高次脳機能障害のある子どもの子育てにおいて、親は記憶や注意に問題があるわが子の特性を頭ではわかっているものの、つい行動の先回りをし、子どもの自己決定力を奪ってしまう「先回りは空回り」状態となることが多いです。全16回の実行委員会では「いっしょに考えて決めていく」ことの重要性を学び合い、議論を重ねました。その後、3つのシンポジウム「1. 兄弟姉妹が考える高次脳機能障害」「2. 自分らしく働ける場所を探して」「3. 話し合う・支え合う・認め合う」の実施が決定し、シンポジウム別に登壇者の方々との打ち合わせも行いました。シンポジウム2の方々のリハーサルを兼ねた最後の打ち合わせでは、当事者の方々が互いの発表をたたえ合い、それぞれの思いが響き合っており、胸がいっぱいになりました。



大会の2日間を通して、皆さんのこれまでの努力に大輪の花が咲く、そんな会になったらと願い、初日の大会長挨拶時に「登壇される皆さん、緊張されていますか？大丈夫です。本大会は皆さんと一緒に考えて学んでいくので、どうぞ安心して発表してください」と申し上げました。実行委員会が大変充実していたからこそ、登壇者の方々に自信をもって発表していただきたかったからです。本番では、教育講演、パフォーマンス、ポスター発表もすばらしく、皆さんが輝いておられました。大会アンケート回答には「当事者様が主体的に動いておられる姿に尊敬せずにはいられません」という大変ありがたいお言葉をいただきました。また、ハイリハジュニア会員で現在就職活動を行っている高校3年生のメンバーから「皆さんのご講演をお聞きして私もすごく感動しました。就職まではすごく皆さんも努力したことが分かりました。就職などで迷ったりしたらこの講演のことを思い出して私も頑張っていきたいと思います。皆さんのご講演ありがとうございました」という感想をもらいました。そして、今回は会場参加型のプログラムを行い、それぞれのスマートフォンを使って「協働意思決定」への理解についてのアンケート調査を3回行いました。3回目では「協働意思決定について理解できた」が100%！大変うれしく、本当にありがたく、100%のグラフ図が今も鮮明に心に残っています。

6日の夜に行った懇親会では、次回開催地である広島大会長岡本隆嗣さん（西広島リハビリテーション病院）にエールをお送りしました。皆さま、来年は広島でお会いいたしましょう！第14回大会に多くの方がご参加くださいますようお願いしています。

今回は大会長という大役をお引き受けし、お役に立てたかどうか分かりませんが、大会に参加された皆さまが今後も「協働意思決定」を行い、周囲の方々とながらつながっていかれますよう心から願っております。大会終了後に参加者の皆さんをお見送りの時にいただいた「ありがとうございます」というお言葉とあたたかな笑顔、忘れません。第13回東京大会にご参加ご協力くださり、誠にありがとうございました。

### 【第14回2025年度全国大会は広島で開催いたします！！】

日時：2025年6月21日（土）・22日（日）

会場：安芸区民文化センター（広島市安芸区船越南三丁目2-16）

大会長：西広島リハビリテーション病院院長 岡本隆嗣



# 第13回東京大会シンポジスト、実行委員の声

## シンポジウム3「話し合う・支えあう・認め合う」

馮 琦

2013年7月、仕事中に高速道路で交通事故に遭い左脚を大腿から切断する身体障害を負い、同時に高次脳機能障害になりました。

突然の交通事故により人生が激変した私にとって、中途障害者になったという現実を受け止めることは簡単ではありませんでした。事故後の数年間は懸命にリハビリに励みましたが、ふとした時に不安な気持ちに襲われ、現実を受け止めきれずに、「どうして私が交通事故に遭い、障害を負うことになったのだろう」と嘆き悲しむことも多々ありました。

しかし、2016年の第6回東京大会に実行委員兼シンポジストとして参加し、当事者ご本人やご家族、福祉やリハビリ等に関わる医療関係者の皆さまなど多くの方々と出会い、皆さまがそれぞれに抱えている様々な人生のストーリーに触れたことで、たとえ障害があっても多彩な人生を送ることはできるのだと実感し未来へ向けての希望を持てるようになりました。その後、私はリハビリを継続しながら社会人大学院に通い再就職という社会復帰を果たすことが叶いました。

今年の第13回東京大会では、再度実行委員兼シンポジストとして大会準備に関わりました。「話し合う・支え合う・認め合う」というテーマで登壇する機会をいただき、私自身が障害を負ってから再就職するまでの経験を軸に発表しました。再就職を決めるまでは社会復帰への不安や戸惑いがありましたが、会社から求められたタスクを達成できた時の喜びや同僚とのコミュニケーションを通じて得られる幸福感は、実際に就労してみたからこそ得られたものです。勇気を出して社会へ一歩踏み出してみて本当に良かったです。

また、本大会では個人的にも多くの学びを得ました。「共同意思決定」と「ピアサポート」という2つのメインテーマがきっかけとなり、私は今特に「ピアサポート」活動に興味を持っています。私の経験を通じて少しでも障害に悩まされている方々の力になればと思っています。ケアコミ学会の活動を通じて、今後も前向きに進んでいきたいです。



## 「私の大切な経験になった東京大会」

齊藤彩花



今回の東京大会では実行委員として参加しました。就労に関するシンポジウムの司会に指名頂いた時は「自分にできるかな」と正直かなり不安でしたが、ベテランOTの三沢さんと共同司会であることや、長谷川代表理事から「大丈夫。別に上手く出来なくたっていいんだから。」と背中を押して頂いたことから、受けさせて頂きました。

就労のシンポジウムは、本番3カ月前から準備が始まりました。当事者の方4名、就労支援を行う

方2名が登壇するのですが、皆さんと打ち合わせするたびに新たな発見があります。また打ち合わせでは、誰かが自分の不安や葛藤、そこからのリカバリー（回復の道り）について話をすると、別の方が共感したり、「自分はどうか？」と考えたりする様子もあります。また、発表を聞きながらうなずく、拍手をする等、お互いに勇気づけあう場面も多くありました。打ち合わせを重ねるごとに、「みんなでシンポジウムを成功させよう！」という機運が高まっていくのを感じました。その様な様子を見られるので、毎回打ち合わせに行くのが楽しみでした。

1時間半の中で登壇者6名にお話を伺うという、とても濃い内容でしたが、無事に終了することが出来てホッとしました。シンポジウム終了後に、登壇者全員とご家族も含めて記念写真を撮ったのはとても良い思い出になりました。終了後に、聞いてくださった方々から暖かい声を掛けてくれたのも嬉しかったです。今回の実行委員・シンポジウム司会での経験や交流は、私にとってとても大切なものになりました。貴重な経験をさせて頂き感謝しています。ありがとうございました。

## ポスター発表者からの感想

### ★ 演題1 「ピア友の活動を振り返って」

石川順一

「ピア友＝脳卒中に関するよろず相談所」と題して発表を行いました。その過程で「脳卒中の本質的な怖さ」が何であるかを考えさせられました。キーワードは「不安」です。私の場合最初は「このまま寝たきりの身体になったらどうしよう」でした。そのあと、「リハビリ」のこと「基本的な生活」のことと「不安」を1つ解決するたびに、また1つ「不安」が襲いかかります。この「不安」は、本人だけでなく、家族や周囲の関係者にも起こり、病状や年齢・性別によって違いはありますが、脳卒中の当事者として、何年か生きてみると、漠然とゴールは分かってきます。その過程を伝えることが「ピア友」の仕事だと再確認することができました。



### ★ 演題2 「私のやりたいピアサポート」

高岡ゆきえ



ケアコミの東京大会が行われると知り、今回はどんな演題なのかを拝見しましたが、「いっしょに考えて、私が決める～協働意思決定」と言う演題でした。私には難しい演題でしたので、最初は諦めていました。しかし、追加で日にちが伸び、連絡メールが来た中に、ピアサポートの文字が！急いで事務局に連絡をさせて頂いたら、ピアサポートで募集しているという事でした。直ぐに、演題抄録を考え提出して見事に通りました。

ポスター作成は、あまり時間はかからずに作りあげ当日は、ぴったり7分で発表できて、沢山の方に質問していただけました。

### ★ 演題3 「当事者を知る目線で支援ができる音声支援ソフトウェア」

山中亨

多くの学びと共感を得られ、協働意思決定の重要性を改めて感じた。れいんぼう川崎の当事者やご家族、理学・作業療法士と取り組んできた実証実験では当事者が目的地に到達できた。技術の過度な支援は自立を阻害するため、AIによる最適解の提供には危険を感じる。開発中の移動支援技術「LOOVIC」は、できる限り人であることを重視し、自らの意思で行動できるよう設計している。これにより、自己発見と創造を促進し、自然な社会の一員として受け入れられる支援を目指している。私の子供も当事者であるため、様々なことを学びつつも、多くのことに共感ができた。今後も、協働意思決定を通じた支援の在り方を模索し、連携し、新たな発見と共に成長していきたい。



### ★ 演題4 「障害者の主体性の確立～チームLEO 活動報告第2報～」

下沢寛美



2021年埼玉大会に続いてチームLEOの活動報告第二報ポスターを作成しました。この三年間の活動を10枚にまとめるのは至難の技であり、LEOのLINEで共有修正を重ね、文字や画像の配色・文章の校閲や写真の選定などすべて3人で協力し、届けたい動画情報をQRコードにして名刺サイズで持ち帰る工夫(川尻担当)LEOの活動を知ってもらうためとチームLEOのチラシを作成し配布(金子担当)、当日3人揃って登壇いつもの挨拶をしたら緊張もほぐれて楽しく発表出来ました

いつか第3報をお届けできるようこれからも頑張ります

### ★ 演題5 「ピアスタッフの仕事とピア活動について」

前田玉三・佐藤京子

初めての学会発表とポスター向けに資料を仕上げる要領を得ず、最初、佐藤さんと2人で不安と緊張がありましたが、発表当日は会場が比較的にじんまりとした部屋だったせいもあり、参加者の顔やうなずき、疑問の表情等が見えて落ち着いて発表することが出来ました。全体的に時間が押してきて、最後のグループでもあり、途中で切り上げとなり

今後の目標等が話せず残念に思いましたが、たくさんの方の発表チームからは、学ぶことが沢山ありました。(前田玉三)

江戸川区にある地域活動支援センターはるえ野でピアスタッフの事について、ポスター発表に参加させて頂きました。

最後の発表者だったのと時間切れとなってしまう最後まで伝えることが出来ませんでした。他のチームはQ&Aもあり、ポスター発表に相応しいもので良かったです。(佐藤京子)



## 新委員会紹介「動画作成委員会」

委員長 細田満和子

「動画作成委員会」は、一般社団法人日本損害保険協会研究助成事業の一環として、動画作成を行う為に、本年度、設立されました。研究内容は、「社会復帰を果たした高次脳機能障害者のナラティブ動画がいかに当事者支援となるか効果検証をする」（申請書より）といったことです。

ケアコミ学会の会員の中には、動画を作成してYoutubeにアップしている方々がいらっしゃり、当事者の動画を見ることで、障がいを持ちながらの生活や就労の参考になるという事をうかがっておりましたので、今回、損保協会の研究助成に応募いたしました。

### 【これまでの活動】

5月の連休明けから、どのような形で進めていくか、ケアコミ会員で動画作成されている方を中心にお声をかけさせていただき、これまでに、オンラインで2回の委員会を開催してきました。

1回目は2024年7月2日(火)の19時から20時までで、11名の方が参加、2回目は、2024年8月6日(火)の19時20分から20時30分までで、14名の方が参加されました。2回とも、様々な意見が積極的に交換されました。どんなふうに動画を作ったらよいかという話し合いでは、「短い時間の動画を数多く作るのもよいのではないか」、「何か作業をしている、体の動きがあるのもよいかと思う」、「インタビューなどもいい」、「一つの形式にとらわれず色々な形式があってもよい」など、それぞれのお考えをシェアしていただきました。

### 【これからの展望】

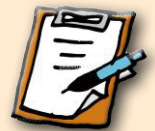
このように動画作成委員会ではたくさんの案が出ていて、どんな風にしたらケアコミらしい動画になるか、まだまだ議論は続いています。今後、会員の皆様に、「1,2年目の自分に向けてのメッセージ」、「復職について」、「社会参加について」、「子どもの場合」などについて動画作成の為に話していただくことをお願いするかもしれません。動画作成への声がかかったら、ぜひご協力ください！また、本委員会に関心のある方は、ぜひご連絡ください！

## 研修会のご案内

### ＜当事者社会参加推進委員会 脳障害になった時にあると良い知識 Part 6＞

#### ～脳障害者の就労について～

日 時：2024年11月3日(日) 13:00～15:00  
会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎(東京都文京区大塚3-29-1)  
定 員：100名(対面、ZOOMのハイブリット形式で行います。)  
講 師：小谷津仁(当事者)・下沢寛美(当事者)・守矢亜由美(支援者)・山本美江子(医師)  
申 込：FAX(03-5432-9338)または sachikohase112@gmail.com まで



件名「2024年度研修会申込」

お名前、ご所属、職種(当事者)連絡先、会場参加、オンライン参加の希望をお知らせください。

参加費：1500円

振込先 シャ)ニホンノウソクショウシャケアリングコミュニティガッカイ

【ゆうちょ銀行から振込】記号：10150 番号：87003021

【その他の銀行から振込】預金種目：普通貯金 店番：0一八(018)口座番号：8700302

(10月31日までにお振込みください)

お問合せ：sachikohase112@gmail.com

## 編集後記

昨年に続き対面での大会、いつもながら元気をもらえる大会でした。本大会のテーマ「いっしょに考えて、私が決める」は、第6回大会でのシンポジウム「本人抜きに語らないで」を思い出し、その時からのつながりを感じました。

最近では、当事者主体のイベントの企画も増え、「一緒に」「共に」が、具体的な行動として動き出しており、当事者からの主体的な発信には驚くことばかりで新たな可能性を示唆しているように感じます。それは、当事者のみならず周囲の支援者への力強いメッセージにもなり、お互いの活動において広い視野で認め合う機会になるのではと思います。次大会広島でも、新たな出会い、気づきがあることを楽しみにしたいと思います。

ご報告：委員会発足時より広報委員として活動されました濱出昌子さんが退任されました。長きにわたりありがとうございました。(広報委員会一同)

中島 鈴美